

EX.VIEW

EXTERIOR
VIEW
2007・Vol.31

INDEX

2007年 新春号・Vol.31

1-4

2007年 新春エクステリア座談会
「空の下に 自在空間」
ミューテリアを語る

5-8

井田洋介のガーデン講座
「居心地のいい庭づくり」
アウトドアリビング

9-14

事例ノート

15-16

スーパー御庭番の達人たち

17-20

古橋宜昌の
EXプランニング実践塾

21

ミニ研修会潜入レポート

22

御庭会通信



空の下で自然と共生しながら 庭を、街を、景観を美しく育てていく



2007年という新しい年を迎えるにあたり、
建築家・プロダクトデザイナーのトミタジュン氏、
インテリアコーディネーターの町田瑞穂ドロテア氏に
エクステリア建材事業本部長の永田等を交えて
晴海トリトンスクエアで行われた座談会。
次代を担う若きリーダーたちのワールドワイドな視点で
エクステリアへの想いや新たな方向性が模索され
熱く充実した話し合いが続きました。

とみた・じゅん
トミタ ジュン

建築家・デザイナー／一級建築士
東京電機大学講師
アティモント・デザイン研究所代表
1967年京都生まれ。
ニューヨーク大学アート学部
スタジオアート学科卒。
東京電機大学建築学科卒。

グリーン建築家・工業デザイナーとして
カリスマ的存在のエミリオ・アン
パースに師事。93年帰国して拠点を
東京に。99年オリジナルブランド「ア
ティモント」の活動開始。現在、建築、
インテリアのみならず、家具、時計、メ
ガネ、文房具からグラフィックまで
ポータルレスにデザイン活動中。
90年ニューヨーク大学モダンアート
展審査員特別賞、95年大阪グッドデ
ザイン賞、通産省グッドデザイン特別
賞、通産省グッドデザイン賞、96年米
国I.D.アニュアルデザインレビュー最
優秀賞などを受賞。
www.atimont.com

まちだ・みずほ・どろてあ
町田 瑞穂 ドロテア

インテリアコーディネーター／一級建築士
英国ロンドンにある「KLC スクール・オブ
デザイン」認定講師
スイス生まれ。
武蔵工業大学工学部建築学科卒。

日本の住宅メーカーをはじめ、米国の
設計事務所RTKLインターナショナル
リミテッドに勤務、「ガーデンウォーク幕
張」「ラ・フェット多摩」などを手がける。
2000年帰国後より、町田ひろ子アカ
デミーにて教育・商品企画・インテリア
デザインなどに関わる。
第1回東京ガーデンニングショー、第2回
国際バラとガーデニングショウ等「ビュ
ティフル・バリアフリー・ガーデン」をデ
ザイン出展。
www.machida-academy.co.jp

古い町屋空間は素晴らしいのに

永田 まずは、住環境における外部空間
について、最近の傾向を、専門家の視点
からお話しいただきたいのですが。

トミタ 僕は京都出身なのですが、いま
外国人の京都人氣がさらに高まっている
状態です。理由は建築であり空間であ
り庭、とくに空間の魅力でしょうか。た
とえば古い町屋のエクステリアが素晴ら
しい。門を開けるとアプローチがあって、
ちょっとした屋根や腰掛け、垣根とい
うような演出がある。

ところが現在の日本は、経済的にはサク
セスしている国なのに、人に見せられる
空間を持っていない。海外に行くと感じ
ますけど、経済的に貧しくても向こうの
住宅は本当に豊かですよね。でも日本は、
外観・街並み・コミュニティといった部分
が雑然としていて、楽しさや活気が感じ
られないんです。

「庭」と「家」はセットで考える

永田 気候風土と共生していく知恵が、
昔の日本建築にはありました。しかし現
在、冷暖房のなかで汗もかかず涙も流
さないひ弱な子どもたちができてしまっ
ているのではないかと。汗や涙を取り戻す
には、外部空間に触れること、家に外部

空間を取り込むことが必要だと思います。

町田 家を建てるのが住まいづくりで
はなく、環境も含めて「庭」と「家」を
セットで考えたほうがいいですね。分譲
住宅をつくる側も、家のまわりに借景と
しての庭を設けるとか、環境を提供する
様な開発を増やしてほしい。住宅団地も、
必ず公園を設けるといった提案をみんな
がしていかないと。お客様は予算の中で
家を広くすることばかり優先せず、「住ま
いは庭があって家がある」という発想を
持ってほしいですね。

永田 庭と家というお話が出ましたが、
「ホーム＝家＋庭」です。ハウスでもな
ければガーデンでもない「ホーム」を提
案しなければいけないし、ホームには絶
対に外部空間が必要だと思いますね。

キーワードは「ロハス」「アジア」

トミタ 僕が今気になっている2つの
キーワードは、どちらも外での生活がイ
メージにあります。

「ロハス」(=Lifestyle of health and
sustainability)は、「健康的で継続的
なライフスタイルをつくらうよ」という
動き。今トレンドとして盛り上がりつつ
ありますが、これは「ホーム」での活動
がメインになると思います。自然と共生
していくことで喜びを取り戻せる。

スローライフにも通じる、理にかなった
ライフスタイルだと思います。

もう一つは「アジア」。アジアのリゾ
ートにはバリのデイベッドのような、屋外
が屋内かわからない、あいまいな空間が
たくさんあります。屋外に屋根だけつ
いた2～3畳の空間が全部マットになっ
ていて、みんなで集まってしゃべったり
寝ころがったり…茶の間であり、ベ
ッドルームであり、テラスみたいな空
間です。

ちなみに僕の事務所のミーティング
ルームは半屋外空間です。ビルの屋上
にテントを張ってまして(笑)。冬は寒
く夏は暑いけれど、慣れると気持ちい
いし、険悪な話をしても屋外だと和む
んです。

町田 日本でも、そのバリのデイベ
ッドのような空間は受け入れやすいで
しょうね。最近は半屋外のレストラン
なども結構ありますし。何か暖まるも
のがセットになっていれば、寒くても
暖房して膝掛けして楽しめそう。

永田 足湯なんか暖かそうですね。

トミタ 足湯レストラン(笑)、ぜひ
つづけてみたいなあ。夏は冷たい水で。

パブリックスペースを共有

永田 日本の街並みは、和風の隣に
南欧風の家がったり、いろいろなス
タイルがごちゃ混ぜで、住宅展示場
のようですね(笑)。

トミタ 取り入れることがうまいから、
取り入れすぎちゃう。全体的な街並
みを共有できる価値観が生まれたい
ですね。

町田 それでも最近、景観を考
えるというムーブメントが生まれつ
つあるように思います。いきなりは
難しいですが、自分の住む街や通
る道、あるいは庭を共有しよう、自
分の庭とパブリックな庭

を大切にしよう、という意識を少し
ずつ持っていければ。

トミタ 生活のなかで緑を世話する
時間を、意識してつくることも必要
かもしれません。建物には個々の
テイストがあっても、それを緑でつ
なげていくと統一感が出て、コミュ
ニティが美しくなりますから。緑
を大切にすることは、街が美しく
なることなんです。

町田 イギリスの個々の家は、道
路に面した側はわずかなスペースし
かなくて、そこにプランターを置く
程度です。でも裏にプライベート
ガーデンがあって、そこでみなさん
ご自慢のお庭をつくって、ある時
期になると自分の庭を披露します。
日本でも、月島あたりを歩いている
と、発泡スチロールに植えた「下町
ガーデニング」が見られます(笑)。こ
ういふ何か植えて飾りたいという気
持ちはみんなが持っているのが大
事なので、提案する側もそれを伝
えていかなければ。

トリトン——都市に緑の生活空間を

永田 今回は、町田さんのアカデ
ミーがある晴海トリトンスクエアに
来ています。ここは都心の商業地
なのに、豊かな自然を感じる和みの
スペースになっていますね。

町田 最初の構想は全部クローズ
した普通のオフィスビルで、緑も
メンテナンスフリーの常緑樹を植
えるのが基本でした。最初はこんな
沿岸地域で緑は育たないと、大反
対されました。それが今とな
っては、実のものや落葉樹など
770樹種。メンテナンスの人を1
人常駐させるなどのシステムもつ
くりながら実現させていきました。
前例がなかったので、何事も戦
いの連続でしたね。

永田 これで前例ができたので、今
後は

トミタジュン氏
「建物を緑でつなげていくと統一感が出て、
コミュニティが美しくなります。
緑を大切にすることは、街が美しくなることなんです」





永田等本部長

「ミューテリアをブランド化して高品位な商品を提案し
諸先生方にご指導を仰ぎながら、大きく育てて
販工店様のビジネスチャンスにつなげたいと思います」

こういうかたちの開発も増えてくるのでは。同様に、販工店様の提案力によって、街並みが変わる可能性もあるんです。そういう自負をもってエクステリアに取り組んでいただきたいですね。それにしても、ここは鳥が多いですが、カラスはいないですね。

町田 どうもローズマリーが、カラスを寄せつけない効果があるみたいですね。ガーデン部分は全部築山にして、いろいろな高さに植物を植えました。また歩く地面にはゴムの再生材を使いバリアフリーにして、子どももお年寄りにも安全に歩きやすく工夫してあります。老人ホームや託児所もあります。なのでここは、ママさんチームと、ネクタイをしめた人たちがミックスする面白い空間になっています。

トミタ 違う社会でのパートの人たちが同じ空間を共有するということは、お互いを意識してとてもいいと思いますね。そうでないと自分中心になってしまますから。

植栽や石材と融合するアルミ

永田 当社では今、日本らしさをどう捉えるかという模索をしています。同時に、先進的で新しい価値空間や、生活シーン



の創造提案をミューテリアと呼び、ブランド化して高品位な商品を提供していくと。その第1弾が「M.シェード」です。ほかにも、たとえば音にこだわって、品位ある音のする門扉といったものも提案していきたいですね。

トミタ 音というテーマも面白い。日本の庭は昔からししおどしや水琴窟のように、聴覚を演出する仕掛けがありましたから。

永田 そのほか、外からは見えにくく中からは見やすい台形の格子門扉なども考えています。こういうのも、これからのすぐれた日本的なものではないかと思えます。

トミタ 庭というと「見る庭」もありますが、「活動の拠点」としての一面があると思うんです。活動とは、集いだったりホビーだったりコミュニケーションだったり、生活の場がそこに生まれてくる。M.シェードの屋根は、昔の人が実現したかった光を遮らない屋根なので、デザイン素材として面白い。それにアルミは100%リサイクルできる優れた素材で、経年変化がほとんどなく、つまり環境負荷が低い。現実的に環境負荷を考えれば、木を伐採してパーゴラをつくるよりアルミのほうがいいわけです。

永田 アルミという素材は、植栽や石材や陶器などの融合体をイメージしながら、生活を豊かにしていく素材。存在感はあっても、あまり自己主張しない素材かなと思いますね。

町田 グッドデザイン賞を受賞したアルミのエレベーターがありますが、アルミ素材は景色を映すので、グリーンを1.5倍ぐらいに見せる効果があるんです。

トミタ アルミというと倉俣史郎さんの作品をイメージするんですが、繊細で美しく、ある意味日本的ではないかと。控えめに使っても、差し色として使ってもきれいだと思います。また、構造体になってその上に緑があったり、木と融合したり。そんなこともこれからのデザインとして出てくると思えます。

いわゆるオフィスビルとは大違い、晴海トリトンスクエアの庭は木々や植栽でこんなに緑豊かな。背景の高層マンションは住宅棟。



5年でこんな大株になったローズマリー。この芳香がカラスよけに？



ヨーロッパのような趣のある小径。弾力のあるゴムを混ぜた床材でバリアフリーにつくられています。ツタのからまった左の建物は立体駐車場。

2007年の抱負とアドバイス

永田 最後に、次世代を担う旗手として、新春の抱負をお聞きたいのですが。

町田 当アカデミーは「はじめに暮らしありき」をモットーに、インテリア・ガーデン・店舗・福祉の学校として、豊かな暮らしを創造し、常にライフスタイルを見つけられる人を育てていきたいと思っています。

トミタ まわりの人としっかり関われる、開かれた街・開かれた家をやさしいかたちで表現していきたいですね。特定のライフスタイルの人だけでなく、ステージ・世代・ジャンルが違うすべての人が融合的に楽しめる、そういった視野で住宅もオフィスも設計していきたい。都市に住もうという動きには、オフィスにいる人と家庭・子どもが一体的なコミュニティをつくれるメリットがあります。僕らデザイナーが、そういう融合的な動きを実践していかなければいけないと思います。

永田 販工店様へアドバイスもお願いします。

町田 お客様が多様化し、勉強されるようになってきているので、対応が大変だと思えます。お互いにできることを考えて、コラボレーションしましょう。ご自身ももっと視野を広げたいなら学ぶ場所もあります。お客様の知識は断片的なもの

です。「暮らし」の目線での提案力、総合的にまとめるプレゼンテーション力をつけてください。

トミタ 大事なものは、自信を持つことだと思います。自分のイメージを一生懸命語ると、まわりは、そんなに一生懸命ならたぶんいいんじゃないかと同調してくれるはず。もちろん勉強して自分のなかにストックし自信をつけていく作業は大事だと思います。でも、出るとこへ出たらヘジテイト(躊躇)しないで、表現者に徹することも必要。自信を持てばクライアントも納得するし、自分にもプレッシャーがかかり、それが結果的によい創造のエネルギーになります。

町田 家は建てたときから中古になりますが、庭はつくったときから始まります。庭が育つことで家の価値が高まる、つまり、庭が価値を高めるんです。庭は外部空間でもありますから、庭を美しく育てることは、街を、環境を変えていくことにもつながります。

永田 当社では今年を「ミューテリア発進年」と位置づけています。今日お越しいただいた若い世代を担うお二人をはじめ、専門家の諸先生方からもご指導いただきながら、ミューテリアを大きく育てて、販工店様のビジネスチャンスにつなげていきたいと思っております。本日はありがとうございました。



町田瑞穂ドローテア氏

「家は建てたときから中古になりますが、庭はつくったときから始まります。つまり、庭が育つことで家の価値を高めるんです」



外からの視線や、日当たりに配慮して 落ち着いてくつろげる団欒の場を

心癒される庭、美しく機能的なエクステリアをつくるにはどうしたらいいのでしょうか。今号から今回のテーマは「アウトドアリビング」。家族が集まるくつろぎの場を、もっと居心地よくするため

3回にわたり、ガーデンデザイナー・井田洋介さんに、そのヒントを教わります。に実例に即してアドバイスをさせていただきました。



いだ・ようすけ
井田 洋介 ガーデンデザイナー、園芸研究家

1944年11月、大阪生まれ。東京都立園芸高校卒業。造園と園芸の店「アウトテリア民園」主宰。ガーデンデザイナー、グリーンコーディネーターの草分け的存在として、ガーデンデザインやコンテナガーデン指導のほか、NHK「趣味の園芸」「私のガーデニング」や雑誌、講演など幅広く活躍。著書は「リビングガーデン一庭で素敵に暮らす」(長岡書店)、新・庭のデザイン実例集5(家の光協会)、「小さな庭で楽しむ花」(NHK出版)、「園芸ミニ百科」(ひかりのくに)など多数。

「庭に家族で楽しく過ごす場所がほしい」と、アウトドアリビングを望まれるお客様が増えています。しかし、ただ庭先に板を張ってデッキをつくれればいい、というものではありません。なによりも重要なのは、どう使いたいかということ。お茶を飲むのか、昼寝をするのか、もっと別のことがしたいのか。それによって設置場所や広さも変わってくるでしょう。また、デッキには椅子やテーブルを置く、などと決めつけず、狭いなら家具など無理に置かないで、ラグを敷いたり座布団を使ってもいいのです。設置場所は、日当たりのいいところにつくられることが多いですが、そうすると

夏はカンカン照りで使えないことも。そんな場合は、近くに木を植えるとか、木の下にデッキを設けるといいでしょう。木は落葉樹にすれば、夏は葉が茂って涼しい木陰をつくり、冬は葉が落ちて暖かい日だまりをつくってくれます。安心してくつろげる場所になるように、プライバシーを守る工夫も大切。道からの視線、隣家からの視線を遮るために、間に木を植えたり、トレリスや柵などでさりげなく目隠しをしましょう。ただし、閉鎖的になりすぎて圧迫感を感じることがないように、景色が抜ける部分は残し、戸外のすがすがしさを感じられる場づくりを心がけてください。

Lesson 1

L字のデッキで 細長い庭に奥行きを感じさせる

S様邸

古い庭をリフォーム。リビングルームに沿って設けたデッキを庭の端でL字に突き出し、ベンチを2本置いて、アウトドアの団欒スペースに。家に沿って横に細長い庭ですが、このように端からの視線をつくると、奥行きを感じさせることができ、実際よりも広々と見えます。古い木があると庭が落ち着き、貫禄が生まれるので、木はできるだけ残すようにしましょう。



奥は隣家なので間仕切りフェンスを設置。ただし高さを140cmに抑えたので、木々の借景も楽しみつつ、ベンチに座れば視線も遮れます。床を切って松の木を残したので、木陰ができて夏も涼しく、「ベンチでごろ寝」は最高だとか。



左側が家。リビングを出てデッキ伝いにベンチのところまで行きやすい。ベンチのところから木越しに自分の家を眺めるのも新鮮な景色だと、ご家族から喜ばれています。

Lesson 2

庭木とフェンスの配置で「開放感」と「落ち着き」を演出

K様邸

庭にリビングダイニングから出られるアールのデッキを設置。そのまま丸見えで落ち着かないので、隣家との境には高く、玄関アプローチ側には低く、竹製のフェンスをつけて視線を遮断。そして、フェンスのない部分は、道路との間に常緑樹を植えて、目隠しをかねた緑の背景をつくりました。デッキの中とフチには落葉樹を何本か配置。夏は涼しい日陰になり、冬は葉が落ちるので日向ぼっこが楽しめます。



隣家との境(右側)は高く、玄関アプローチ側(左側)は低く仕切って、プライバシーを守ると同時に、視線が抜ける部分もつくって開放感も確保。竹製のフェンスはナチュラルで優しい印象。



椅子に座るだけでなく、このようにラグやゴザなどを敷いてじかに座るのも楽しい。より気楽にくつろげます。



玄関アプローチ側のフェンスは低いので、圧迫感がなく、後ろに植えた木々の緑も生きます。デッキの中の木は株立ちのコナラ。



庭木の配置と、フェンスの位置と高さが絶妙で、あらゆる方向からの視線をたくみに避けながら、デッキ+芝生の心地よい庭をつくっています。

Lesson 3

レンガのテラス+木製デッキが庭と室内をゆるやかにつなぐ

H様邸

「外に出て楽しむ庭」をコンセプトに、芝生、低いレンガのテラス、少し高いレンガのテラス、もう少し高い木のデッキと、少しずつ床レベルを変えていくことで、外と内との空間をゆるやかにつなげました。庭と室内を行き来しながら、のんびりくつろいだり、ホームパーティをしたり、子どもと遊んだり、さまざまな団樂のかたちを楽しめそうです。庭木はモミジやヤマボウシ、エゴ、カシ、コナラ、トサミズキなど落葉樹の雑木を集めて、自然な雰囲気。



芝生の庭の奥にレンガのテラスと木製のデッキを設置。つねに視野の端に木が入るように、要所所に株立ちの雑木を配してあります。芝生の端には、トレリスで目隠しして洗濯物干し場を設けるなど、実用的なスペースもきちんと確保。



芝生、レンガのテラス、木製デッキと多彩な表情の庭。奥へ行くにつれ床レベルが上がり、落ち着いた空間になっていきます。隣家との間はトレリスをあしらった塀で目隠し。



奥の木製デッキは室内と直接つながっており、家への出入りはレンガのテラス部分から。

Lesson 4

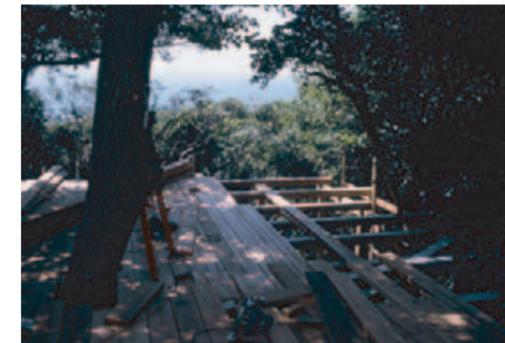
美しい景色や自然の風はできるかぎり取り込む工夫を

M様邸

山の斜面の上に建ち、林の向こうに海が見える家。「窓からデッキを張り出したら気持ちがいいでしょうね」「じゃ、つくってください」ということで、このロケーションを生かし、斜面の上に幅5m×長さ7mの広い木製デッキを設置しました。ご主人はすっかりここが気に入り、パソコンを持ち出して一日中海を見ながら仕事をしておられるとか。遊びに来た友達も、必ずここで長居していくそうです。



斜面にあった木はほとんど切らず、デッキに穴を開けてそのまま残しました。夏は木陰になって涼しく、冬は落葉するので日がよく当たり暖かいとのこと。



デッキの施工中。斜面の上に建てているので、足下の柱の高さは最長5mにもなり、かなり大がかりな工事に。

Lesson 5

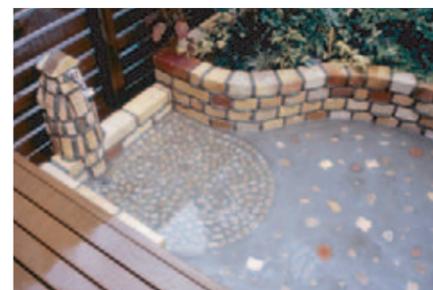
たとえば子どもが遊ぶプール アウトドアの団樂をもっと自由に

W様邸

団樂のかたちは家族によってさまざまなので、アウトドアリビングも、もっと自由に発想してもいいのでは。たとえば、子どもと遊べるこんなプールはいかがでしょうか。庭の狭さを逆に生かして、思いきって花壇とプールだけで構成しました。プールとして使わない時期でも、庭の小路として、子どもの遊び場として、なんとなく人が集まる楽しいスペースになっています。



庭の花壇の一角は家庭菜園に。デッキの上にもプランターを設置して、親子で楽しめる場所に。



フチは色あいに味のある耐火レンガを使用。プールの底にもレンガの断片を埋め込むなど、遊び心のあるデザインに。排水口近くのモザイク石はイセゴロを使用。



浅いプールですが、泳ぐというより水遊びが思いきりできるので、子どもたちに大人気。庭の小路としてもじゅうぶんに美しい。



エンドユーザー向けのショップ「^{すいか}翠花」で
エクステリアだけでなく建物も手がけ、
庭から発想した自然派の家を建てていきたい

名古屋の大手造園会社から独立したのが26年前。その後、個人営業から始めて数年後に当社を設立し、おもにハウスメーカーからの紹介による造園・外構の設計&施工と、官公庁の公共工事を2本立てに業務をおこなってきました。



代表取締役・中野正文様

設立当初の昭和50年代は、個人住宅がエクステリアに目覚めはじめた時期で、まだハウスメーカーにもノウハウがなく、こちらが主導権をもって仕事ことができました。ところがここ数年ハウスメーカーの力が強くなり、主体的な仕事ができにくくなってきたので、平成14年に、本社とは別に、エンドユーザー向けのショップとして蟹江町に「翠花」をオープンしました。

「翠花」のスタッフは営業が2名、設計が1名。オープン当初は、ショップの存在を知ってもらうために、新聞折り込みチラシと、「翠花メール」というDMのポスティングなどを行いました。チラシは現在も年4回発行しています。そういった広報活動もあって、ショップもだいぶ認知されてきたようで、現在エンドユーザーのお客様の成約は月に平均7~8件、全体の3割ほどになってきました。今後はもっと割合を増やし、ハウスメーカー紹介とエンドユーザーを半々ぐらいにしていきたいと思っています。

当社の自慢は「対応」と「技術力」。お客様とよく話し合い、26年の歴史と実績で培ったノウハウで提案します。どんなデザインにも対応しますが、とくに石などの自然素材を使って、和の雰囲気をもたせた落ち着いたデザインが得意です。

また、エクステリアだけでなく、最近では建物の設計やリフォームも手がけるようになり、好評をいただいています。建築家の建てる家とはひと味違う家、たとえば土間続きの玄関とか、戸外の空間を生活に取り込んだ空間など、庭から発想した家を建てていきたいと思っています。そして、田舎のよさ、自然に囲まれた生活の楽しさを発信し続けたいですね。



お客様に提案するプランの図面。カラフルで夢があり、しかもわかりやすく解説してあります。



新聞折り込みチラシ。施工例の写真などもふんだんに入れ、説得力があります。



【エクステリア全景】
オープンエクステリアで、庭の手前が洋風、奥が和風に。無理に仕切りさうオープンにして、門柱などをシンプルな自然素材でまとめたため、2つのイメージが違和感なく調和しています。写真手前が駐車スペース。

スタンプコンクリートをベースに、六方石、コロ石、ガラスブロックなどさまざまな素材をあしらった斬新な門柱。和にも洋にも調和する侘び感が印象的。



和と洋の庭をオープンに調和させた和みの家
N様邸

3世代同居のN様は、4台分の駐車場と和と洋の2つの庭をご希望。そのため、庭の中央をアプローチで区切り、両側に和の庭と洋の庭を配置。全体に和を意識した自然素材でデザインすることで、統一感と落ち着きをもたせました。高齢のご両親のためにアプローチにはスロープも設置された、安心と和みの家です。



【和室前の沓脱ぎ石】
奥の和室の濡れ縁の前には、大きな沓脱ぎ石が置かれ、美しいアクセントに。



【スタンプコンクリートを壁面に】
駐車場の壁面の「石」は本物ではなく、スタンプコンクリートを使って経済的に。



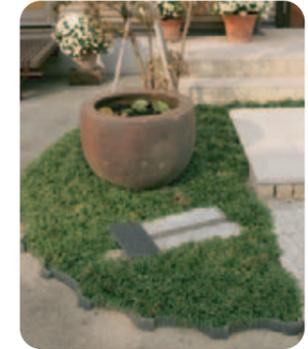
【スロープのアプローチ】
玄関アプローチを境に、左側（奥）が和の庭、右側（手前）が洋の庭に分かれています。どちらのイメージにも合うように、アプローチの床には直線的な石を使って和の雰囲気をもたせています。また、段々と並んでスロープも設置。高齢のご両親のための暖かい配慮です。



【和の庭全景】
つくばいや灯籠などを所要所に置いた和の庭。砂利を敷いた床部分を多く取ることで、草むしりをラクにしています。飛び石の配置が美しい。



【つくばい】
天然石のつくばい。背後の細長い石を縦に組んだ石組が面白い。



【水瓶】
古火鉢の水瓶には睡蓮、足下にはタマリユウが茂り、直線的な飛び石が斬新。フチ取りには瓦があしらわれています。



【灯籠】
和の庭の奥には灯籠。笹やギボウシ、背後の垣根など、植物の配置も絶妙。

Re-Garden Shop 「^{すいか}翠花」

お客様の使いやすさを第一に提案。
最近リピーターや紹介が増加中

エンドユーザーのお客様向けのショップです。来店されるお客様は、折り込みチラシやHPをご覧になった方だけでなく、車でたまたま通りかかって見つけた、という方もいらっしゃいます。来店数は週に3~4組。最近のご希望は「リフォーム」が多いですね。

一番大切にしているのは「お客様の使いやすさ」。そこにデザインをプラスして心地よい空間を提案しています。図面やパースは手描きとキャドを併用。手描きの暖かみも大切にしています。最近リピーターやご紹介が増えているのですが、それはお客様が満足されている証拠だと思うので、うれしいですね。今後もさらに喜んでいただける提案をしていきたいと思っています。



ショップ全景。通りかかって「キレイだから」と来店されるお客様もいらっしゃるかと。



右から、「翠花」店长・佐藤晴彦様、設計担当・稲葉しのぶ様。



アプローチ。さまざまな床材やブロックが用意され、素材選びの参考に。



レンガだけでもこんなに種類があります。



レンガ、枕木、天然石。いろいろな素材を使った、さまざまな表情の床を展示。

狭い敷地をUスタイルで有効活用。一体感のある外観に

M様邸

自宅で仕事をされているM様は、狭い敷地に車2台+1台分のゲスト駐車場を希望。そこで敷地対応力の高い「Uスタイル」で限られたスペースいっぱいにカーポートを設置。門や塀などに建物と同系色の色と素材を使って、一体感のある外観デザインに仕上げました。



【エクステリア全景】

ベージュ系の建物の外壁に合わせて、レンガ+土壁で低い門と塀を設置。カーポートや門扉などの金具類が、すべて建物の窓枠と同じアーバングレー色なので統一感があります。



【カーポートの床】
コンクリートだけでなく、砂利や角石で変化をつけておしゃれに。

【カーポートの奥の中庭】
水はけが悪くて木が育たないため、床を天然石貼りや砂利を敷くなどしてテラス風の庭に。



カーポートの一角は、建物の形に合わせて庇をプラスしたため、雨に濡れない自転車置き場に。こういうことができるのも「Uスタイル」の敷地対応力のなせるわざ。



【カーポート】
カーポートは「Uスタイル」を採用。ぎりぎりのスペースに美しく納まり、2台の駐車を可能にしています。



【玄関アプローチ】
曲がって入るアプローチが、狭いスペースに距離感をもたらしています。左の門扉は「ニューカムフィ」、右の手すりには「エトランポ」の下にパンチングの汎用型材を組み合わせたもの。

斬新な和の感覚で築100年の料亭をリフォーム

T様邸 (料亭)

名古屋にある格式高い料亭のエンタランスと、建物のインテリアの一部をリフォーム。築100年以上の由緒ある建物なので、古い部分とリフォーム部分が違和感なく調和するように神経を使い、とくにエンタランスは最初から侘びた風情に仕上げました。



【玄関ホール】
赤い絨毯を敷き詰めたホール。右側のカウンターの奥には、坪庭のような一角を設け、つくばい風のしっらいで水が流れ、そこに生け花が飾られています。



【店のエンタランス】
狭いコーナーにつくばいや灯籠を配置して、しっとりとした落ち着いた空間を演出。左の太木と井戸（写真には入っていない）以外はすべてリフォームして新しくしましたが、あえて古さを演出するため、苔むした古い感じに仕上げられています。



【玄関アプローチ】
エンタランスを左に見て、玄関に。引き戸の棧から漏れる光や、天然石貼りの床に打ち水の風情が美しい。



【客室+坪庭】
客室もリフォーム。雪見障子の向こうに設けられた坪庭には、ミニつくばいなどをあしらって雰囲気演出。

事例ノート

埼玉県大里郡
有限会社 彩光建設 様

“リーズナブルな価格で確かな仕事”に情熱を燃やす若い職人集団。 宅地造成から外構主導でプランニングを



代表取締役・志村敏様

以前は住宅と公共建築を扱う工務店で土木工事を担当していましたが、平成11年に独立して、エクステリアと土木の設計施工をおこなう当社を創業。最初は不動産会社や工務店からの仕事を中心でしたが、しだいにエンドユーザーのお客相手のお仕事が増加してきました。現在実績は月に7~8件で、そのうち6:4でエンドユーザーのお客が多くなってきています。なぜ増えてきたのかは……口コミでだんだんと、という感じですかね。これといった広報活動はしておらず、チラシやDMを打ったことも一度もないんです。ですから、1件1件きちんと質の高い仕事をしてきたことと、コストを抑えたリーズナブルな価格で提供してきたことが評価されたのではないかと考えています。スタッフは15名。その大半が20代の若さで、みんな情熱をもって仕事に取り組んでいます。しかも、プランナー1名と事務1名以外の13名は、すべて外構や土木の職人です。いってみれば当社は職人集団なのです。ですから、職人ならではの目線で、デ

ザインばかりが先行してしまうことのない確かなプランを提案しますし、納まりのいい工事をして、ブロック1本でも無駄な使い方をしません。そのあたりが、“仕事の質が高く、価格がリーズナブル”という評価につながっているのではないかと思います。また、土木工事ができるのも強みです。このあたりの土地は、畑から宅地に造成することが多いので、造成と外構をまとめて請け負えば、最初からエクステリア主導でプランニングができるのです。事例としてご紹介しているK様邸も、敷地の造成から手がけたものです。そのため、建物の設計段階からエクステリアのプランも進めることができ、配線・配管なども建物側と話し合いながら決められ、バランスのいいプランになったと思います。今後は、いまのところなかなか手が回らないアフターサービスも、強化していきたいと思っています。そして将来は、宅地造成・外構から建物の建築まで手がけ、エクステリアと建物をトータルにプランニングしていきたいですね。

現場での納まりも考えて デザインしています



設計を担当するアドバイザー
小谷野千鶴様

エクステリアの設計歴は1年半ですが、その前に5年ほど建物の設計をしていました。建物はモジュールが決まっていますが、エクステリアは型にはまらず、現場によってすべて違う。なのでデザインするのが大変ですが、その分面白いですね。当社は職人集団なので、こうすると納まりがいいとか、ブロックを切らないですむといった、現場サイドの意見がどんどん出てきます。おかげで現実的なものをふまえたうえで、無理のないプランニングができます。今後は、話題のリビングガーデンなどを取り込みながら、エクステリアと建物をトータルコーディネートしていきたいです。





【エクステリア全景】
門扉をはさんで左右にカーポートを設置したダイナミックなプラン。カーポートのアーバングレー色が、グレイッシュな家の外観とマッチして、大きいのに重苦しくなく軽快な印象に。



【左側のカーポート】
6m間口の「スーパーポートG-1」には車が4台。さらにその脇（写真手前）に、ゲスト用駐車場を2台分設置。カーポートの後ろにある建物にはバイクを収納。



【右側のカーポート】
こちらの「スーパーポートG-1」には、とくにお気に入りの2台を駐車。防犯のため脇に側面パネル、前面にはシャッターゲート「パレオS型」を付けました。カーポート脇の勝手口の門扉とフェンスは「キャスモア」を採用。ここから直接庭に行けます。



【駐車場の床】
コンクリートの一部に砂利やタマリユウの植え込み部分をつくり、デザインのアクセントに。



【門まわり】
端正なタイル張りの門柱と塀に、鏡門扉「ダイナミ」の質感が調和して、和洋折衷の落ち着いた雰囲気。



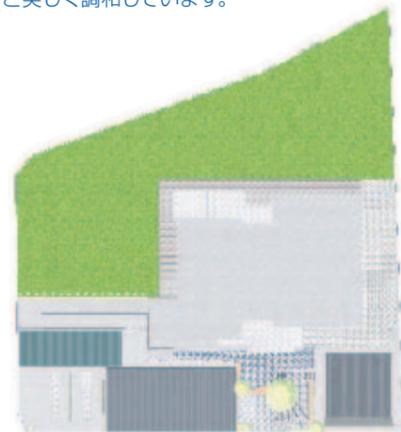
【玄関アプローチ・玄関から見たところ】
株立ちの木を中心に曲がりくねったアプローチが美しい。植栽の面積は少ないのに、要素所で効いています。



【玄関アプローチ・門から玄関へ】
門から入ったところ。曲がりくねりながら少しずつ階段を上がり、玄関に至ります。

ダイナミックなカーポートと端正な門まわりが印象的 K様邸

「車を8台駐車したい」「防犯のため盛り土して見晴らしのいいエクステリアに」という施主様からの要望により、敷地の造成から手がけました。日当たりのいい南側をガーデンにして、北側の道路面に沿って8台分の駐車場を設置。降雪量は少ないのに湿った重い雪が降る土地柄なので、カーポートは積雪対応の「スーパーポートG-1」を採用。カーポートをはじめ、門扉、フェンス、シャッターゲートなど、金物類はすべて軽快なアーバングレー色に統一したため、圧迫感がなく、建物と美しく調和しています。



【スロープのアプローチ】
左の駐車場の奥にはスロープを設置。車から降り、カーテンゲートから入って、このスロープを使えば庭に入れます。高齢のご両親を配慮したやさしい設計。カーテンゲートは「エアリーナ」、手すりは「エトランポ」を採用。



【庭側から見たエクステリア】
270坪という敷地を生かして、南側は広々とした庭に、盛り土をして床レベルを高くすることで、開放的なのに道路からの視線が届きにくく、プライバシーが守られています。フェンスは「ラヴェンデル」を採用。

お客様の声

「美しくて便利。満足です」

K様「外まわりは、家を建てたハウスメーカーにも見積もってもらったんですが、かなり値段が高かったんで、彩光さんに決めました。このあたりは車が必需品。3世代7人家族のため、駐車場はできるだけとりたかったんで、希望通り8台駐車できて満足です。それに、大きなカーポートをつけたわりには、明るい色のせいか圧迫感もなく、住まいとの統一感も取れて、非常に気に入っています。両親のことも考えてスロープもつくりましたので、先々も安心です」
奥様「車がスムーズに使えてとても便利。ご近所の方からも、すごいねーって言われるんですよ」



K様ご夫妻と彩光建設・志村様、小谷野様。
K様はアマチュアカメラマン歴30年という趣味人でもあります。

スーパー御庭番の達人たち… ⑥

ユーザー様のハイレベルな仕事ぶりをレポートするこのシリーズ、今回は、御庭番ユーザーの会「栃木御庭会」の初代会長として作図技能向上と会の発展に尽力される達人に、上達法とさまざまなテクニックを教えてくださいました。

ひと晩いじるうちに使い方をマスター！ 新しいデザインや 部材を工夫するのが、また楽しい

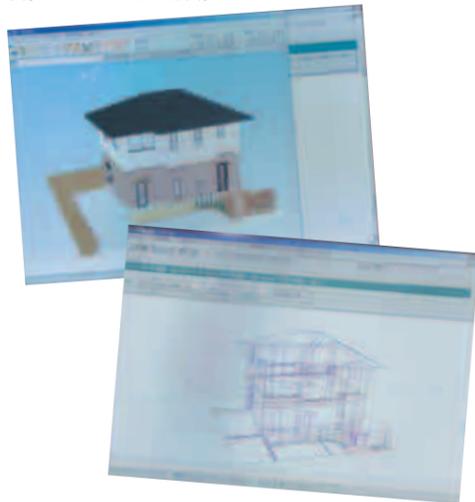
「スーパー御庭番の達人」
有限会社 泉新工業 代表取締役 広瀬泉様

御庭番を導入したのは7年前。使い始めた日、作図の説明を受けて、その晩一人でやってみたら、思ったよりどんどんできたんです。それで、ひと晩かけて図面もパースも仕上げてしまいました。翌朝、続きを教えに来てくれた担当者の方の、「ええっ？本当に描いたんですか？」という驚いた顔が忘れられません（笑）。御庭番の良さは、「コマンド」といったパソコンの専門用語でなく、きちんと日本語で、それもエクステリア工事の用語を使っていること。それに、パースの描き方は、基準点を設けて、いくつ上がりで…とやっていくので、現場と同じなんです。なので、パソコンに詳しくなくても使いやすいと思います。御庭番にはたくさんの部材や商品が入っていて、たいいていのプランはつくれます。

しかし、そこにない部材やデザインが必要になった時は、既存の部材から工夫して自分でつくってみたくになりますね。そういう作図をしているときは、もう時間を忘れて没頭してしまいます。で、たとえば門柱のアーチを出すために、大きさの違う円柱をちょっとずつつなぎ合わせたり…。そんな面倒な作業を延々とやっていると、修行僧のような気分になります（笑）。そこまで凝っても、誰が気がつくわけでもなく、別に売りに上げてプラスになるわけでもないんですが（苦笑）、でもやっぱりいろいろと試行錯誤したすえに思い通りのものが描けると、ものすごく達成感があります。それに、建物にしても、ディテールにしても、より本物に近く描ければ、その分さらにリアリティが増して、お客様に対しても説得力が高まると思いますね。



「御庭番を導入したきっかけは、商品展示会のデモンストレーションの女性が素敵で、あ、御庭番っていいかも…と憧れてしまって（笑）」などとユーモアたっぷりに取材に応じてくださった広瀬様。



達人からの上達アドバイス



「習うより慣れろ」
「立ち向かうのではなく遊ぼう」

御庭番のようなOA機器は苦手、という方は、まず肩の力を抜きましょう。「御庭番に立ち向かう」のではなく「御庭番と遊ぶ」という感覚で、まずは気軽にさわってみてはいかがですか？

「ピー」と鳴るので、安心して間違えられますしね。最初はどんどん間違えたほうがいい、その分覚えやすから。で、簡単なものでいいから、なんとか作図を一つ完成させてみてください。そうすれば自信がつくし、面白くなって、次に進んでいけると思います。



達人のテクニック・その1

屋根は、実物の建物を写真に撮ったり
平面図から勾配を計算して描く

御庭番に入っている家は、大まかなものが数パターンだけなので、ちゃんと描こうとすると、自分で工夫しなくてはならなくなります。とくに屋根は家によって形や勾配が違うので、かなり難しい。私は建築の知識がないので、複雑な屋根は描けませんが、現場で実物の写真を撮ったり、屋根の図面が手に入ればそこから勾配を計算して、角度を合わせ、屋根を描いていきます。面倒だけど、工夫するのは楽しいですね。



達人のテクニック・その2

ツートンカラーの外壁は、
塀の機能を使って
高さを3通り設定して色分けする

建物の外壁が2色になっている場合は、上の色、境目のボーダー、下の色に分けます。そして、それぞれ塀の機能を使って高さを設定して描いていきます。たとえば上の部分はH3000、HL3768、ボーダーはH88、下の部分はH3000、HL680というふうに。いつもこんな面倒なことばかりしてるわけじゃありませんよ（笑）。でも最低限、家の壁と玄関ドアと掃き出し窓1つぐらいは描きます。家とのバランスやトータルな視線が大切ですから。



屋根もツートンの壁もしっかり描かれたパース画。「まあ、ここまでする必要はないんですけど、でもお施主様が、「あっ、うちだ！」と驚いてくださって、インパクトはあったようです（笑）」



達人のテクニック・その3

「塀にミニ棚」といったディテールは
階段などの機能を使って、臨機応変に工夫

このお宅では、奥様が「鉢が飾れる棚を塀につけてほしい」と希望されたので、こんなプランを考えました。棚の部分は、こういうパーツが御庭番にないので、階段で作成。塀の中で高さを決めて、階段の踏み面を置いていく、というふうにして描きました。階段は便利で、いろいろなディテールづくりに応用できます。電柱なども階段からつくりますね。電柱まで描くのかって？電柱とか止水栓とかが入ると、パース画にリアリティが出るんですよ。



実際に完成した塀。3枚の棚は小物やグリーンで飾られ、エクステリアに遊び心を演出しています。



階段の機能で描いた塀のミニ棚。最初、木の棚を考えていた奥様に、「木は長持ちしない」と自然石で提案し、採用されました。

古橋宜昌の EX プランニング実践塾 第3回

前回の課題の確認

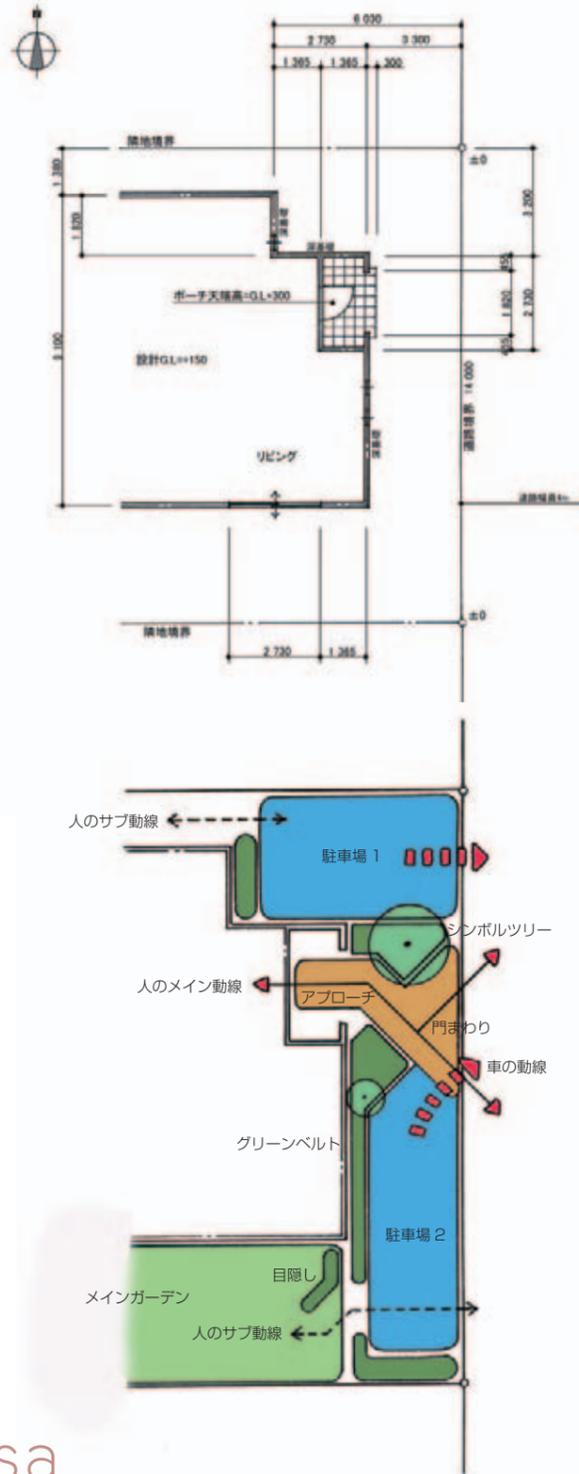
まず始めに、前回の課題の敷地条件について、もう一度確認をしておきましょう。敷地の条件としては東入りのプランで、道路と敷地の高低差は150mmでした。道路面の間口寸法は14mで、施主の要望としては

- 東側のスペースに駐車場と門まわり、アプローチを提案して欲しい。
- 所有している車は1台だが、来客用も含めて2台分の駐車場が欲しい。
- 玄関ポーチは最上段のみ決まっているので、もう1段はアプローチと合わせて計画して欲しい。
- スタイルはオープンスタイルとし、植栽スペースを多めに確保して欲しい。
- 門袖又は門柱を設置して、ポスト、表札、インターホンを付けて欲しい。
- 玄関脇にあるリビングの縦長窓と道路の間に落葉樹を植えて欲しい。
- 駐車場(または道路)から南側の主庭への通路を確保して欲しい。

となっていました。みなさんはどのようなプランを考えられましたか?今回も模範プランを使って考え方やポイントを解説していくことにしましょう。

■ゾーニング

まず始めに駐車場のレイアウトを検討するわけですが、今回はメインガーデンのスペースを確保する目的で2台の車をL型に駐車するパターンを採用しました。また、門まわりにも植栽スペースを確保し、ゆとりのあるプランにするため、駐車場2は南側隣地境界側へ寄せってみました。アプローチにも変化をつけるため動線を斜めに配置し、南北どちらからも入りやすいよう道路に対して裾広がりイメージになるよう床を広く取っています。道路からメインガーデンが丸見えにならないよう動線をクランクさせ、目隠しも提案したいと思います。



Furuhashi Norimasa



古橋 宜昌
ふるはし のりまさ

生年月日:1958年4月6日
東京電機大学理工学部建設工学科卒。
有限会社エクスプランニング代表取締役・エクステリア&ガーデンアカデミー東京校長一級建築士・一級造園施工管理技士・一級土木施工管理技士。
JAG日本ガーデンデザイナーズ協会会員・英国王立園芸協会会員・同推奨品認定委員・大手ハウスメーカーのエクステリア部門を経て、1997年、日本では珍しいエクステリアとガーデンの設計業務を請け負う会社「エクスプランニング」を設立。
個人住宅のエクステリア&ガーデン設計は年間500棟を越え、その設計事例は多くのガーデニング専門誌等で紹介されている。
ホテルオークラで開催されたガーデニングショーでは「イギリス大使夫人の庭」のデザインと施工を担当。設計業務の傍ら専門学校や英国王立園芸協会などのセミナーの講師、デザインコンテストや「TVチャンピオンガーデニング王選手権」の審査員なども務める。

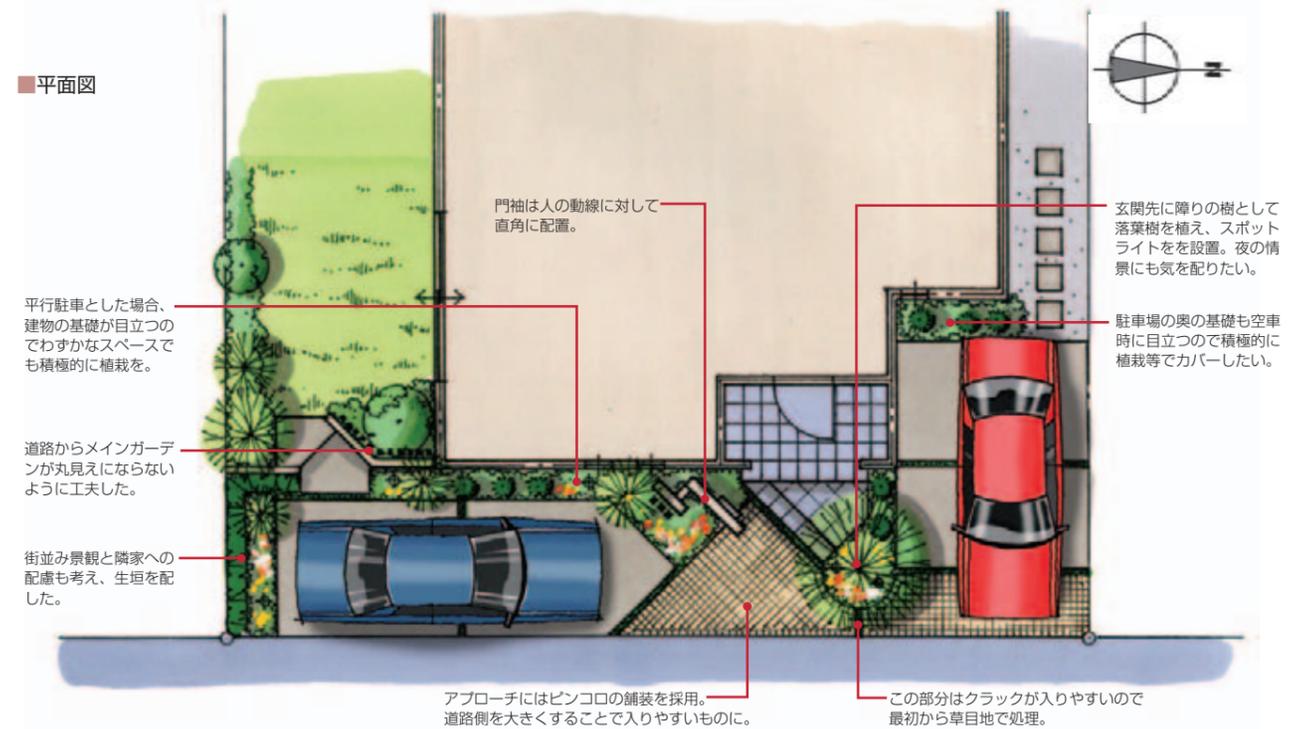
ホームページアドレス <http://explanning.m78.com>

■模範プラン

それではゾーニング図をもとに作成しました模範プランをご覧ください。

立面図と比較しやすいように、便宜上平面図は西を上にして表示しています。2台分の駐車場とアプローチの床が目立つオープンプランですが、積極的に植栽スペースを確保することで、全体として柔らかい印象になるよう考えてみました。

■平面図



■立面図



■イメージパース



もちろん、このプランが正解というわけではありませんので、あくまでもプランの一例としてご覧いただき、ご自分で考えられたプランと比較して、各ゾーンのバランスや納まりなど、実邸を設計する際の参考にいただければ幸いです。

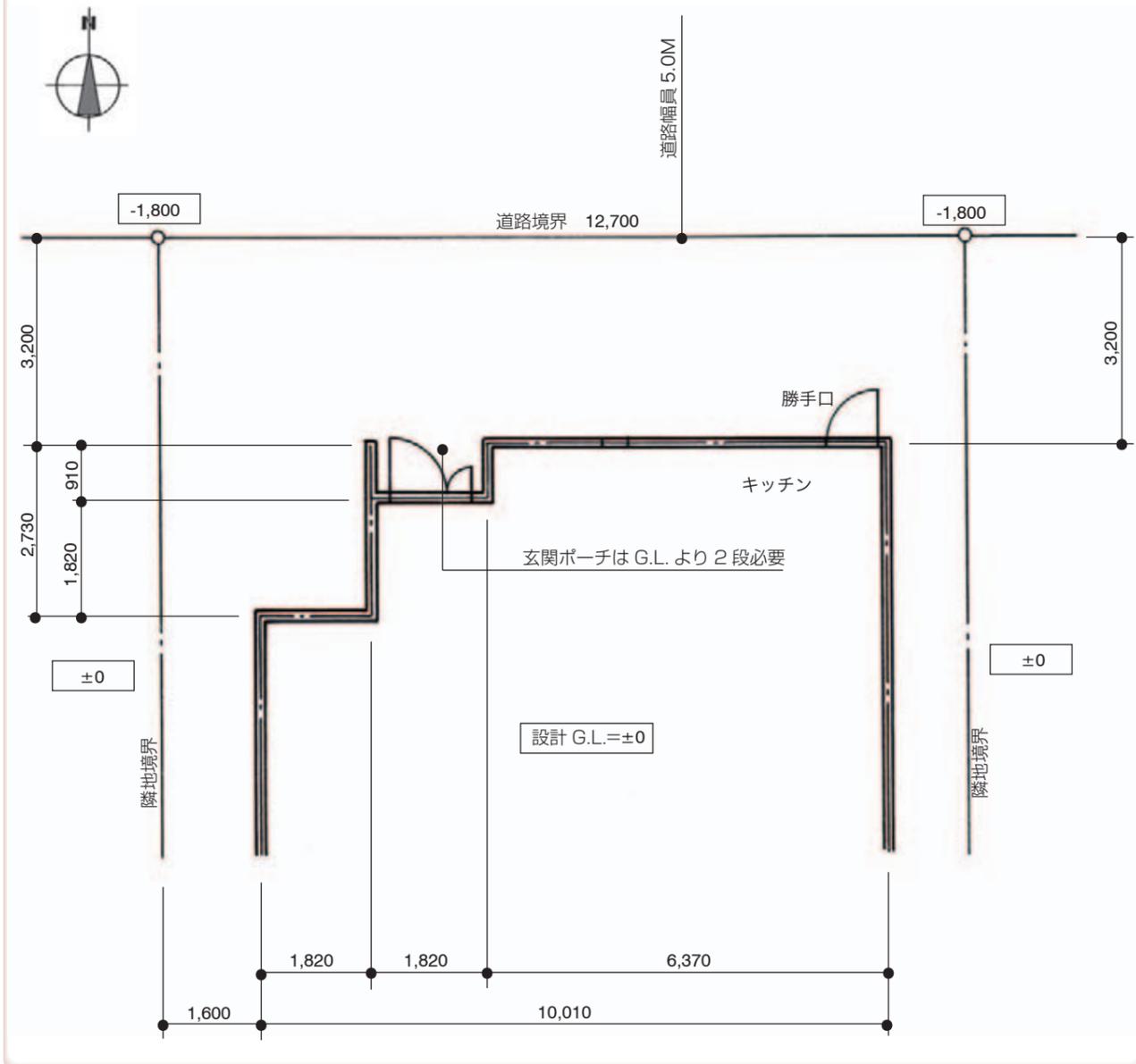
第3回目の課題について

それでは今回の新しい課題をご覧くださいませ。

敷地条件は北入りで、道路と敷地の高低差は1,800mmとなっています。

下記の敷地条件や施主の要望を踏まえて、ゾーニング図・平面図・立面図（可能であればパース図）を作成し、次号の模範プランと比較できるように準備しておいてください。

1. 敷地条件



2. 施主の要望

- 駐車場を1台分確保してください。
- 道路と敷地の高低差が大きいので玄関までのアプローチ（階段）を提案してください。
- 玄関ポーチはアプローチと合わせて計画してください。（標準ポーチの天端高さはG.L.より350mm上がり）
- キッチンの手口から出たところにサービスヤードを提案してください。
- 建物の東および西側は人の通路を確保しておいてください。
- 東および西隣地境界は内積みでブロックフェンス、必要に応じて擁壁を設けてください。
- スタイルはオープン、クローズどちらでも結構です。

「私ならこう考える! ゾーニング手順と計画時のポイント」

今回も私がプランニングする際に、どのような事を考えているのかその一部をご紹介します。プランニングの参考にしてみてください。

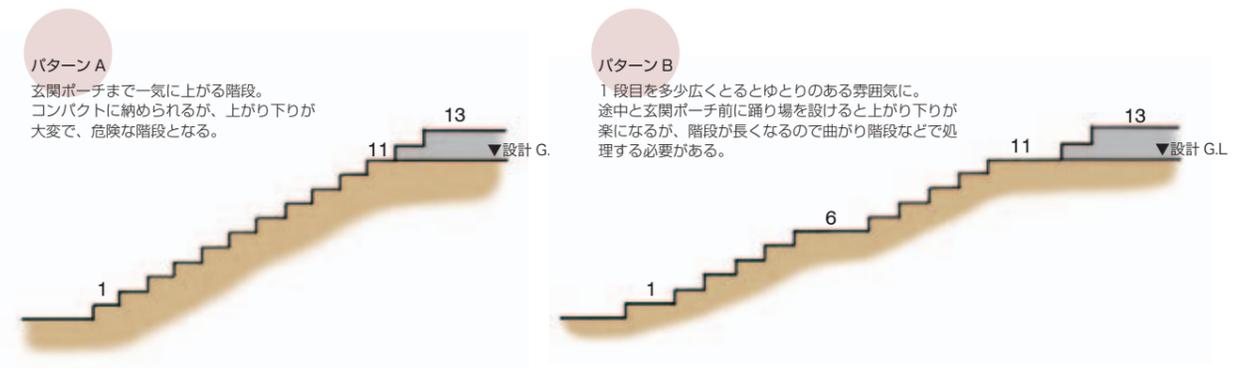
1. 階段の段数の検討

このように道路と敷地の高低差が大きい物件の場合は、必要な階段の段数についてまずチェックしておきます。今回の課題における敷地と道路の高低差は1,800mm(1.8m)となっていますので、この高低差1,800mmを仮の段数で割ってみて、その数値が1段あたりの蹴上げの寸法となるので150mm~180mm程度となるように段数を決めていきましょう。

仮に8段で計算すると $1,800\text{mm} \div 8\text{段} = 225\text{mm}$ となり蹴上げが高すぎることがわかります。10段で計算すると $1,800\text{mm} \div 10\text{段} = 180\text{mm}$ となり、上限値ギリギリです。階段の段数が少ない場合は問題ありませんが、今回は段数が多いので1段追加して11段として再度計算すると、約164mmの蹴上げとなるのでちょうどよいことがわかります。

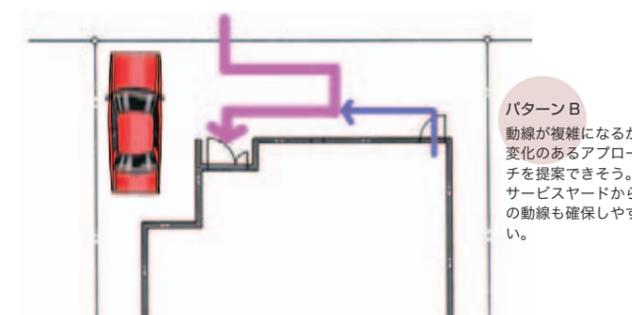
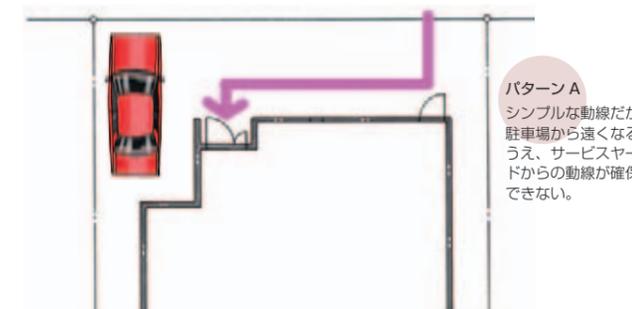
2. 階段の考え方

では次に11段の階段+玄関ポーチ2段の計13段をどのように計画すればよいのか検討しましょう。



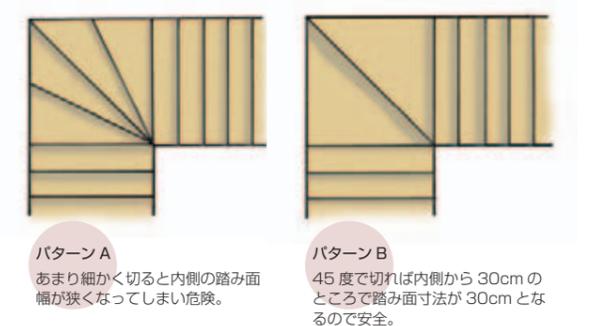
3. アプローチ動線の検討

次にアプローチ動線をどのように確保すればよいのか、駐車場を北西角にすると検討してみましょう。



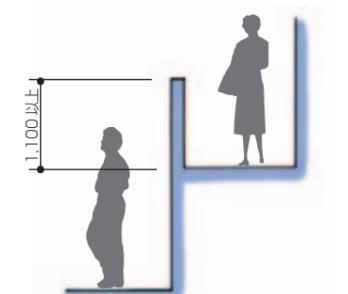
4. 曲がり階段の注意点

アプローチ動線をパターンBのようにすると、曲がり階段を採用することになると思いますが、その場合は踏み面の寸法について注意が必要です。



5. 転落の恐れがある場所での手摺の高さ

転落して危険な場所には、高い方の床から1,100mm以上の高さの壁または手摺が必要となるので注意しましょう。



キメ細かな商品説明、M.シェードの実物展示。70名以上の販工 店様にご参加！ 充実の研修会でした

11月9日(木)、三重県四日市市内で、三協立山アルミ四日市営業所による「2006年秋の新商品ご案内会」が開催されました。出席された販工店様は76名。さまざまな新商品の説明に、熱心に耳を傾けていました。また、会場に展示されたM.シェードへの反応も熱く、実物にさわって確かめたり、担当者に質問される光景があちこちで見られました。参加された皆様の意欲が感じられる充実した研修会。その様子をレポートしました。

新商品で新たな需要開拓を！

東海エクステリア支店・田嶋支店長 挨拶



当社は「空の下に自在空間」というコンセプトのもと、新カテゴリー「ミューテリア」を発表しました。本日は、その第一弾の商品・M.シェードを中心に説明させていただきます。非常に斬新で特徴的な商品ですから、上手に使うことで空間を快適に再利用し、新しい需要開拓をはかっているだけだと思います。



秋の新商品ご案内

「ひとと木」に新色+汎用部材を紹介

人工木デッキ「ひとと木」は、ジャパネスクやクールモダン系の住宅に合う新色チャコールブラック、スイートグレーの2色を追加。また、今まで知名度の低かった「現場アレンジ用部材」を知っていただくために、汎用部材、汎用合成材、ハイブリッド外装材、木調部材アクセント材、形材フェンス用多段支柱などをとり上げ、特徴や具体的な使い方を解説しました。

「M.シェード」の革新性と高品位性

新商品「M.シェード」は、業界初めての3次元プレートトラス構造、ダイナミックな10mスパンの梁、開放感あるスペースづくりなどが特徴。空間の自在性を高め、新需要の創出が期待される、高品位・高品質な商品であることを説明。実際の商品もご覧いただき、個別に質疑応答も行いました。



よくある不具合、ワンポイント施工ガイド

強風時フェンスが破損するなど、よく起こる不具合の原因を解説し、それを防止するための施工ガイドを行いました。



研修会を終えて…

四日市営業所・瓜生島所長「今回は新たな販工店様にも多数お集まりいただき、当社の意気込みと取り組みを知っていただくよい機会になったと思います。商品説明は各担当者が自分の言葉で発表しました。みなさんお疲れ様でした！」



東海エクステリア支店・四日市営業所
中山、穴戸、瓜生島、吉田(左上から)、森、井上(左下から)

「M.シェード」突撃インタビュー

デザイン+機能性があるって
しかも発想が新しい！



エクステリアサンワ ((株)三和販売)
代表取締役 伊藤裕之様

「U.スタイルも今回も、発想が新しい。駐車場だけではもったいないので、メインガーデンに使いたいですね。三協立山アルミさんの製品は、デザイン+機能性が魅力。市場の二極化が進む今後、新たなブランドになってほしいですね」

スペースを有効に使える。
和モダンにも合いそう

株式会社たなべ
外構プランナー・寺本奈穂美様

「シンプルモダンだけでなく、和モダンにも調和すると思います。最近では1軒で車3〜4台も珍しくないで、少ない柱で広いカーポートスペースが取れるのはありがたいですね。駐車以外にもバーベキューもできるし、庭の楽しみが増えそうですね」



(左から) 古川良次様、
寺本奈穂美様、林有香様

御庭番スタッフ紹介

香川県松山市
ベスト産業株式会社様
販売促進部 岩下奈央様

最近では変化も簡単に描けて
ますます使いやすくなっています



御庭番担当の岩下奈央様、城戸司様

御庭番歴は長く、10年前、入社早々に言われて始めたのがきっかけです。最初はキャドもパソコンもいじったことがなかったので不安でしたが、いざ使ってみると慣れるのは早く、1〜2ヶ月でほぼマスターしてしまいました。他のキャドを使ったことはないのですが、御庭番はやさしくて使いやすいと思います。とくに修正が簡単なのありがたいですね。それに、最近ではデザインのディテールやパターンも増えて、アールがついたり、穴があいた変化も描けるようになりました。御庭番を使った図面やパースは、カラーで美しい、いろいろな角度から見た絵がリアルに描けるので、営業の人たちも「お客様にイメージを伝えやすい」と言っています。商談にもプラスになっているようです。まだお使いになっていない方も、思ったより簡単ですから、気軽にチャレンジしてみたいと思います。お休みの日は、5歳の娘とずっと一緒に過ごします。お買い物に行ったり、動物園に行ったり。娘と楽しく過ごすことが一番のリフレッシュになりますね。

御庭会通信

中国御庭会

10月12日
ホテルサンルート徳山にて

中国御庭会では10月12日に「研修会」を行いました。今回は(有)エクスプランニングの古橋先生を講師にお迎えして「相見積もりに負けないプランニングとプレゼンテーションテクニック」と題して講演会を開催しました。出席されたメンバーの方々の中には先生の一言一言にうなずきながら熱心にメモを取る姿もみられました。即、実際の仕事に直結する内容でもあり、出席された皆様には大変有意義な研修会であったことと思います。





EXTERIOR VIEW 2007
Vol.31

 三協立山アルミ株式会社

〒933-8610 富山県高岡市早川70
エクステリア建材事業本部 情報誌編集室 TEL.0766-20-2261 FAX.0766-20-2071
<http://www.exteriorworld.jp/>